

名古屋第二赤十字病院で診療を受けられる患者さんへ

～臨床研究に関する情報公開について～

当院では、下記の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、カルテ情報等の診療情報を研究目的に利用されることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象とはしませんので、下記の問い合わせ先にご連絡ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。また、研究の詳細についてお知りになりたい場合も、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。なお、研究の詳細については、他の研究対象者等の第三者の個人情報や知的財産の保護に支障がない範囲内での開示となります。

研究課題名	入院を要する肺炎患者における初期抗菌薬治療と予後に関する研究：臨床観察研究		
研究実施予定期間	院長が研究実施を許可した日 ～（西暦）2024年3月		
研究実施診療科	呼吸器内科		
研究の倫理審査等	治験・臨床研究審査委員会審査日	2020年8月7日	
	院長が研究実施を許可した日	2020年8月11日	
対象となる方	対象期間中に名古屋第二赤十字病院に肺炎のため入院された方		
対象期間	2009年3月15日 ～ 2019年7月31日		
主たる研究実施機関	名古屋大学医学部附属病院 呼吸器内科 (研究代表者氏名：進藤 有一郎)		
共同研究機関	別紙【研究組織】参照		
当院の研究責任者	所属	呼吸器内科	氏名 村田直彦
研究の意義	肺炎は日本における死因の上位を占める重要な疾患です。今日までに肺炎で入院した際の抗菌薬選択につき、様々な議論がされてきました。最近では、耐性菌を予測する方法が報告されており、リスク因子を計算することで耐性菌の割合を予測し、抗菌薬を選択することが推奨されておりますが、それが最適な治療法なのかはわかっていません。これを明らかにすることで、より適切な抗菌薬治療を治療初期から選択することを可能にし、治療の改善が見込まれます。		
研究の目的	初期抗菌薬選択が予後に与える影響を検証し、適切な初期抗菌薬治療を明らかにすること。		
研究の方法	過去の診療のデータを振り返って、必要な情報を収集し、名古屋大学の研究者でデータを分析します。		
研究に使用するもの	診療録から得られる情報を、匿名化した上で使用します。年齢、性別、既往歴、合併症、血液検査結果、微生物培養検査結果、使用された抗菌薬、治療成功の有無、予後（生存か死亡か）など。		
診療情報等の他機関への提供方法	必要なデータを、研究担当者がインターネット上の専用システムに登録します。なお、データは、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離され、セキュリティーのかかったデータ		

	ベース上で管理されます。
結果の公表	関連学会や学術論文等で発表予定です。対象者の氏名等の、直ちに個人を特定できる情報を公表することはありません。
個人情報の保護	対象者の方の情報の使用に際しては、氏名や住所等といった個人を直ちに特定できるような情報とは切り離し、対象者個人とは無関係の番号を付けた上で、研究責任者の責任の下、廃棄するまで厳重に保管・管理します。
研究の資金源	本研究は特に資金を必要とせず、外部からの資金提供もありません。
利益相反	本研究の実施にあたり、研究の透明性や公正性を損なうような利益相反はありません。
情報等の二次利用	本研究で得られた情報は、本研究の目的以外には使用しません。
問い合わせ先	名古屋第二赤十字病院 呼吸器内科 村田 直彦 電話 052-832-1121 (代表)

《別紙》

【研究組織】

1. 研究代表者

名古屋大学医学部附属病院 呼吸器内科助教 進藤 有一郎
〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65
TEL: 052-744-2167.、FAX: 052-744-2176.
E-mail: yshindo@med.nagoya-u.ac.jp

2. 共同研究者

所 属	責任者
JA 愛知厚生連豊田厚生病院・呼吸器内科代表部長兼アレルギー科部長	谷川 吉政
トヨタ記念病院・副院長・腫瘍内科部長	杉野 安輝
大垣市民病院・副院長	進藤 丈
公立陶生病院・副院長兼患者支援センター長	近藤 康博
名古屋掖済会病院・呼吸器内科部長	坂 英雄
名古屋第一赤十字病院・副院長・第一呼吸器内科部長	小笠原 智彦
豊橋市民病院・呼吸器内科部長	菅沼 伸一

3. 研究実施施設

同上